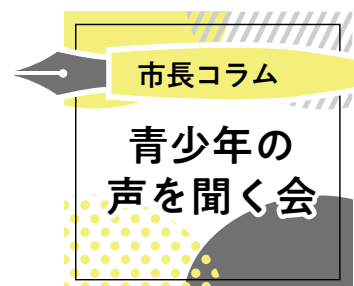




発表してくれた未来を担う子どもたち



小中高生が口頭考えていること、感じていることを発表する「串間市青少年の声を聞く会」が1月14日、市文化会館で行われました。児童18人が、安心安全で豊かな串間の未来を目指した提案や将来の夢などを発表しました。

豊かな生活環境からこそ起こる「食品ロス問題」や「人口減少問題」、地球温暖化やゴミなどの「環境問題」などについての発表があり、問題の解決策を子どもならではの視点で具体的に堂々と提言していました。そんな姿を見てたくましく思いましたし、「串間が好き」という気持ちが伝わりうれしくも思いました。子どもたちの提言は今後の市政運営の中で答えていきたいと思っています。

今年は県議会議員、市議会議員選挙が予定されており、また、来年は市制施行70周年を迎えます。一つの大きな節目として、70年の歴史の中で反省する部分はしっかりと反省して、将来を担う子どもたちが希望を持てる「ふるさと串間」に向けて、今後さらにまい進して参ります。



くしま朝市「よかむん市」
毎月第3日曜日 朝7時～9時
場所：道の駅くしま
大屋根イベント広場



ふっくらと炊きあがったヒノヒカリ



コミュニケーションを大事にする祥一さん



朝市ではさまざまなイベントが行われています

1カ月に1回早起きする日がある。毎月第3日曜日に朝7時から開催しているくしま朝市「よかむん市」に行くためだ。冬の空はまだほの暗く、目覚め前の街並みに静寂を感じながら朝市会場へと向かう。そこには、一変してにぎやかな空間が広がっている。さまざまな店舗が並び店主の個性豊かさが現れた店舗構えに心も踊る。

そんな朝市に出店している店舗を隔月で紹介していこうと思う。今回紹介するのは喜多米穀店さんだ。店主の喜多祥一さんは、明朗で物腰が柔らかくお話を聞いているだけでわくわくすること。今回の取材で初めて米のことを聞いたがどんな話に引き込まれていった。

喜多米穀店さんは朝市にえびの市産と高原町産のヒノヒカリを出品している。ヒノヒカリは柔らかく甘みがあり、比較的粘り気が少ないのが特徴。普段より安い朝市特価で購入できるのも朝市の魅力の一つ。

精米方法は、種類ごとに変わる。ヒノヒカリは特に難しくコシヒカリなどよりぬか層をむかないといけないがむき過ぎるとうまみが逃げる。そこに米穀店の技が光る。

こだわりのお米は炊き方にもこだわりたい。「乾いた状態のお米に最初に注ぐ水が重要。」



いい水を注ぎ、手でひと回ししたら水を捨てる。この作業を4回ほど行うことでお米に付着する雑味のもとを取り除くことができる。研ぎ方も、水を捨てた状態で研ぐ。ことがポイント。」と祥一さん。

祥一さんの話を聞いていると無性にごはんが食べたくなる。さっそく米を購入し、自宅で炊いてみる。ふたを開けた瞬間、ごはんの匂いで部屋が満ち、思わずため息。ふっくらと炊きあがったごはんは期待が高まる。温かなごはんを一口。確かに柔らかく甘い。味は控えめで主張しすぎないのでおかずの良さを際立たせる。祥一さんのおすめは明太子。試してみると明太子の辛さと白米の甘さのバランスが良く、箸が止まらなかった。

「朝市では、コミュニケーションを楽しんでほしい。いつも変わらずにいる店主に対して実家のような温かさを感じることが出来るはず」と祥一さん。

良い商品がお得に買えることも魅力だが、店主との何気ない会話も朝市の醍醐味のひとつだ。

うたごよみ

「短歌」串間短歌会選

一月や梅のかをりも床しさも
未だ纏へず卒寿となりぬ

西小路 坂本 不二子

四歳のとぎれとぎれに読むカルタ
必死の闘い大人が四人

上小路 吉開 美穂

導かれ短歌が取り持つ縁となり
歌友の米寿祝える幸よ

小路 安山 らく

二度までも大病経るも明るかりし
炭坑節の先頭の母

大平 城 敏

黒潮の風吹く牧に冬が来て
冬毛に着替へし岬馬立つ

霧島 清水 しづ子

「俳句」あさひ俳句会選

広ごれる春の田の土手
戻りけり

仲町 原 里歌

おちこちに人の影ある
春田かな

上町一 又木 順子

神に扮し神話の里は
梅真白

仲町 矢野 欽子

熱燗や夜の風の声
独り聞く

仲町 木島 幸子

日輪とバラと詩集
ひびきあう

(一般投句)

大島 河野 浩泰



うたごよみに掲載する写真を募集しています。
まちの魅力を再発見できる写真のご応募をお待ちしています。詳しくはこちら▶

問 総務課秘書広報係 ☎72-4559